

請願第5号

私立幼稚園幼児教育振興助成に関する請願

紹介員 宏子 雄行
天北 議野 俊智
富和 林安 輝一
和島

私立幼稚園児教育振興助成に関する請願

(1) 請願の要旨

1. 架け橋プログラムの促進を図るために、二市一町の各教育委員会に担当者を置いていただきたい。
2. 就学前、就学時に特別支援を必要なお子さんを支えるためにも体制のさらなる充実を図っていただきたい。
3. 幼児たちが主体的、対話的な深い学びを行うための環境設備費や教材費などの補助をお願いしたい。

(2) 請願の理由

我が国で23年度に施行されたこども基本法は、全て子どものウェルビーイング（幸福な状態）を目指しています。こども家庭庁はオールジャパンでこどもをウェルビーイングにしようと呼びかけています。特に、乳幼児期にこどもにウェルビーイングを経験させることは、その生涯を保証し、同時に保護者・養育者のウェルビーイングを目指すことにもなるともいえます。このことを踏まえ、連合会は、こどもたちを身体的・精神的・社会的に幸せにするために、以下の請願をお願いします。

(3) 請願の内容

1. 架け橋プログラムの促進を図るために、二市一町の各教育委員会に担当者を置いていただきたい。

幼稚園から小学校への架け橋プログラムは、幼児教育を受けて、成長した園児たちを理解した上で、小学校自身がその受け入れを図るという文部科学省の意図が、乙訓の一部の小学校の試みを除いて、まったく生かされていないのではないかと思っています。

いつまでたっても、小学校は幼児教育での成長を踏まえず、何も教育を受けていないものとして、小学校に適応させようと躍起になっているように見えます。まず、小学校の教師が幼稚園の参観などを行い、幼稚園での子どもの成長を理解することから始めなければならないように思います。教育委員会が音頭をとって、小学校教諭が幼稚園教育の理解を深めるための方策を行っていただきたい。向日市は、専任ではないがこの取り組みを25年4月からなそうとしています。その試みの後押しもお願いしたく思います。

2. 就学前、就学時に特別支援を必要なお子さんを支えるためにも体制のさらなる充実を図っていただきたい。

育てにくくいと見えるお子さんを持つ保護者は、強いストレスを抱え、周囲からの無理解にも苦しめられています。幼稚園はそのような保護者の相談に乗りつつ、その保護者を支えていますが、療育や医療の支援もいります。従来のものより密なる連携を図れるように、制度設計を共に考えてゆきたいと思います。また、就学が適切になされるように、少子化にもかかわらず、増えている特別支援を必要とする子どもたちに対する就学に関わる教育支援委員会のさらなる充実を図っていただきたいのです。

3. 幼児たちが主体的、対話的な深い学びを行うための環境設備費や教材費などの補助をお願いしたい。

良質な幼児教育をうけることが子どもたちのウェルビーイングの向上に役立つこと、非認知能力の向上を図ることは知られています。また、幼児教育は特にインクルーシブ教育ができやすいこともあります。幼児教育は、子どもたちに安心と挑戦できる環境を与えていました。それも、それぞれのこどもたちの状況に合わせてです。そのような環境整備のための補助金をお願いしたいのです。

以上3点につきまして、乙訓の行政が、世の中の人材育成の根本や本質にあたる幼児教育や療育に関して、直接しっかり支えるという体制をとる事を公に示す事で、社会もこれを評価し、その結果ますます乙訓地域の健全な発展を促すものとなると信じています。

以上、私たち乙訓地区の私立幼稚園の保護者と教職員は地域住民の期待に応えるため署名簿を添えて助成を請願いたします。

令和7年11月21日

請願者

向日市議会議長 山田 千枝子 様